

事例4 小学校のOJT実践事例

若手教員中心のプロジェクトチームでミドルリーダーについて学ぶ
【プロジェクトリーダーとして】

小学校の教職員の年齢構成は、50歳代、60歳代のベテラン教員が多く、30歳代、40歳代の中堅教員が少ない。本校でも同様の傾向が見られ、中堅教員が早急に学校を支える存在となることが求められている。そのため、若手教員や中堅教員の育成を目的として、20歳代から30歳代の教員を中心に学校課題解決のための「プロジェクトチーム」が組織されている。中堅教員としてプロジェクトチームのリーダーを任されたため、ベテラン教員の協力を得ながら以下のような取組を行った。

〈取組の内容〉

○授業改善プロジェクトを全校体制で協働して実践

今年度、プロジェクトチームで取り組んだテーマは、「授業改善」である。まず、チーム内の若手教員で自校の授業について分析し、授業改善を具現化するためのプランを作成した。次に、プランに対する意見をベテラン教員に求め、アドバイスをもらった。こうすることで、ベテラン教員の助言を基に若手チームの提案をよりよいものにすることができ、ベテラン教員と若手教員が協働した取組になるのではないかと考えた。

その後、全教員にプランの内容を提案して全校体制で実践した。

○参加型授業研究会の開催

授業改善プロジェクトを実践していくために、年間4回の校内授業研究会を計画した。

校内授業研究会では、若手教員もベテラン教員も率直に意見を言えるようにするために、「子どもの学び」に着目して、子どもの事実即した議論を行うこととした。こうすることで、教科や学年、経験年数などの枠を超えて活発な意見交換が行われ、参加意識を高めることができた。

これが成功の鍵！

⑥役割を与える、仕事を任せる

若手教員にとってプロジェクトの実践は難しかったですが、チーム内の教員と一緒に考えながら、日々成長することができました。

⑦校務分掌などの校内組織を活用する

若手教員中心のプロジェクトだからこそ、ベテラン教員は協力を惜まず、全校体制で実践していくことができました。

【若手教員の声】

チームの皆さんと一緒に授業改善プランを考えたことが、とても勉強になりました。ベテラン教員の先輩方からもアドバイスをたくさんいただき、日常的に授業のことについて話せるようになりました。



研究授業の一場面



校内授業研究会の様子

〈取組の成果〉

- ・プロジェクトチームのリーダーとして運営を任されたことで、若手教員とベテラン教員をつなぐ関わり方を意識するようになった。ミドルリーダーとしての資質能力について体験的に認識できた。
- ・世代を超えて授業について語り合う関係が生まれた。子どもたちのことについても職員室の中で日常的に語り合う雰囲気生まれ、お互いを理解し合うことで職員の関係性が高まった。
- ・若手教員の新たな発想から、多様な学習内容や指導方法に挑戦する教員が増えてきた。
- ・役割を任せられたことで、それぞれが当事者意識をもち、やりがいや達成感を感じながら主体的に実践できた。